

原稿執筆要項

原稿の内容はこころの安全とケアについて扱ったものであり、本会の設立趣旨にかなったものとする。趣旨に沿わない場合は原稿を受理しない場合がある。

また、編集スタイルは、原則的に米国心理学会(American Psychological Association, APA)が発行している『Publication Manual of the American Psychological Association, 6th ed.』(2010)/『APA 論文作成マニュアル第 2 版』[2011、医学書院]に準拠する。しかし APA スタイルは原版が英語であるため、一部、本学会誌独自のスタイルが含まれる。

本文は Microsoft 社の Word を使用し、表は Word または Excel で作成する。図、表、写真は、PDF ファイルまたは JPEG ファイルで保存する。

JPEG 解像度が 350dpi 以上の低圧縮の状態で提出すること

PDF パスワードはかけず、フォント埋め込みの状態提出すること(可能であれば、JPEG または TIFF 形式が望ましい)

1. 本文

文字の大きさは和文 MS 明朝体、欧文 Times New Roman の 10.5 ポイントを使用し、書式は左右余白 30mm、上下余白 50mm、入稿とし、文字数は 40 字×25 行となるように設定する。本文には必ずページ数を中央下に挿入する。文章の欄外に行番号を付与することが望ましい。

1 ページ目の最上段に論文タイトルを記載し、1 行空けて本文を開始する。著者名および所属など投稿者を特定できる情報を書いてはいけない。

2. 文体ならびに句読点

文章は簡潔でわかりやすく記述する。文体は「である調」を基本とする。

読点は縦書きの際に通常使用する「、」ではなく「,(全角コンマ)」とし、句点は読点との区別を明瞭にするために「。(全角句点)」とする。

漢字は、原則的に「常用漢字表」に則るものとする。なお、専門用語についてはその限りではない。本文や図表中(文献は除く)で用いられる数量を表示するための数字および欧文については、半角文字を使用する。ただし、1 桁の数字および 1 文字のみの欧文(A 氏など)の場合は全角文字とする。

3. 見出し

論文の構成をわかりやすく提示するために見出しを階層化する。

見出しは「MS ゴシック」体を用い、外国語・数字には「Times New Roman」を用いる。

本文の見出しは、以下に示す第 1 階層から階層を構成する。見出しに付ける数字・記号、およ

びピリオドは全角を使用する。

I. II. III.

A. B. C.

1. 2. 3.

A. b. c.

1) 2) 3)

a) b) c)

4. 図、表および写真

図、表および写真は、ひとつずつ A4 判用紙に配置し、図 1、表 1、写真 1 などと本文出現順に通し番号を振り、そのあとにタイトル名を簡潔に示す。図、表および写真は白黒で掲載されるので、白黒で十分理解できるものを作成すること。

図、表および写真は、原稿本文とは別にまとめて巻末に添える。図、表および写真を原稿に挿入する箇所は、原稿の右側余白に図、表番号を指定する。図、表および写真の様式は APA スタイルに準拠する。

5. 引用

論文の中で、自己の主張に関連づけて他の著作者の文章や図表の一部を使用する場合は、出所を明示すれば著作権所有者の許諾を得ることなく「引用」することができる。文献は 2 行目から 2 マス下げる。

6. 引用形式

本学会は下記以外の様式は基本的に APA スタイルに準拠する。

1) 文献記載の様式

文献は、本文中に著者名、発行年次(西暦年次) を括弧表示する。

文献は、本文末尾に一括して、著者名の和洋を問わずアルファベット順に列記する。但し、著者名は 6 人目の著者まで表記し、7 番目以降の著者は、他.(et al.)として省略する。記載方法は以下の例示のごとくとする。

【雑誌】

著者名 (発行年次). 表題名. 雑誌名, 巻(号), 頁数.

英文雑誌の場合、雑誌名は斜体とする。

<例>

下里誠二, 塩江邦彦, 松尾康志, 西谷博則, 石川博康他 (2007). Broset Violence Checklist (BVC)日本語版による精神科閉鎖病棟における暴力の短期予測の検討. 精神医学, 49(5), 529-537.

Shimosato S., Kinoshita A. (2018). Degree of Anger During Anger-Generating Situations Among Psychiatric Staff Nurses: Association Between Nurses' Attitudes Toward Service Users' Aggression and Confidence in Intervening in Aggressive Situations. *Journal of Psychosocial Nursing and Mental Health Services*, 56(9), 51-59.

【書籍】

英語書籍の場合、書籍タイトルは斜体とする。

同一書籍からの本文引用の箇所が1か所である場合は開始ページと終了ページを記載するが、引用箇所が複数にわたる場合は文献リストにページを記載せず、本文中の引用箇所当該ページを記載する。

・書籍

著者名. (発行年次). 書籍タイトル, 開始ページ-終了ページ, 出版社名, 出版地.

<例>

小塩真司. (2010). 共分散構造分析 はじめの一步, 162-163, アルテ, 東京.

Paterson B., Turnbull J. (1999). *Aggression and Violence Approaches to Effective Management*, 25-50, Macmillan Education, UK.

・編集された書籍の論文あるいは章

* 論文あるいは章の著者名表示がある場合

論文あるいは章著者名. (発行年次). 表題. 編集者名 (編), 書籍名, 開始ページ-終了ページ, 出版社名, 出版地.

* 論文あるいは章の著者表示がない場合

編集者名(編). (発行年次). 表題, 書籍名, 開始ページ-終了ページ, 出版社名, 出版地.

<例>

下里誠二. (2004). 暴力はどのように研究されてきたか, 包括的暴力防止プログラム認定委員会 (編): 医療職のための包括的暴力防止プログラムマニュアル, 23-27, 医学書院, 東京.

・翻訳書

原著者名. (原著の発行年次/翻訳書出版年). 翻訳者名 (訳), 翻訳書タイトル, 開始ページ-終了ページ, 出版社名, 出版地.

<例>

Benson S. (2000/2007) 稲谷ふみ枝, 石崎淳一監 (訳). パーソンセンタード・ケア 認知症・個別ケアの創造的アプローチ改訂版, 20-22, クリエイトかもがわ, 京都.

【電子文献】

著者名(入手年月日検索). タイトル. URL

<例>

厚生労働省(2018年9月26日検索). これからの精神保健医療福祉のあり方に関する検討会とりまとめ(素案). <https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000->

2)本文中の引用

本文中の引用箇所には著者の姓、西暦文献発行年をつけて表示する。

<例>著者が2名の場合

下里・谷本は……と主張している(2010)。

<例>著者が3名～5名の場合

初出では全員を列挙し、再度引用する場合は筆頭著者に「ら」、欧文の場合は「et al.」を付す。

(初出)……である(下里・松本・北野, 2012)。

(再引用)下里ら(2012)は「……」と述べている。

<例>著者が6名以上の場合

初出、再引用に関わらず筆頭著者に「ら」、欧文の場合は「et al.」を付す。

「……」と永池らは述べている(2014)

<例>翻訳本の場合:原著の発行年および翻訳本発行年を表記する

Williams, E・Barlow, R(2001/2012)は「……」と述べている。

<例>同一書籍からの本文引用の箇所が複数にわたる場合該当ページを表記する。

下里は……と述べている(2019, pp.5)。

……とされている(石原, 2018, pp.193-194)。

7. 投稿時の必要情報

原稿の種類は「投稿規定」の中の表に示された特徴から、自己判断して適切なものを選択する。査読者および学術委員会の審議の結果、採用可能な別の種別を勧告する場合がある。

表紙に和文のタイトル、キーワード(5語以内、医中誌およびCINAHLのシソーラスを確認すること)、希望する論文の区分、本文枚数、図表写真の枚数、和文著者氏名、和文所属、和文連絡先住所(連絡者氏名、住所、電話番号、Fax番号、E-mail)を記入すること。

初稿受付後の筆頭著者と共著者の変更は認めない。

8. 抄録

400字程度の和文抄録をつける(原稿の文字数には含めない)。半角文字も1字としてカウントする。原著論文及び研究報告は掲載決定後に200語前後の英文抄録を提出する。英文抄録には本文の前に、英文表題(すべて大文字)、英文著者名、英文所属、後に英文のキーワード(5個以内)を付記する。

英文抄録は200語以内とし、原則としてTimes New Romanの12ポイントとする。英文抄録に間違いがないことを証明するネイティブチェックの確認書を提出する。

9. 利益相反

著者全員について、研究内容と関係がある利益相反状態を「利益相反の開示」として明記する。利益相反状態がない場合は、「本研究における利益相反は存在しない。」と記載する。研究費(科学研究費補助金、厚生労働科学研究費補助金など)は、利益相反自己申告の対象には該当しないがその旨を明記する。

10. 著者貢献度

著者貢献度(Author Contributions)について、著者の論文への貢献度を下記の例のように記載する。

<例>

「すべての著者は、研究の構想およびデザイン、データ収集・分析および解釈に寄与し、論文の作成に関与し、最終原稿を確認した。」

この要項は、平成 30 年 10 月 1 日より発効する。

この要項の改訂は、平成 31 年 2 月 9 日より施行する。

この要項の改訂は、令和 3 年 3 月 31 日より施行する。